

新年度が始まり、卒業や入学、就職などで新生活を始めた方も多いのではないのでしょうか。

今年も暖冬だと騒がれながらも、3月の末でも急に冷え込んできたりと体調を崩しやすいつ時期の中、世間では新型コロナウイルスの大流行が騒がれ、不安な時ですが、こんな時だからこそ体調管理をしつつありたいですね。

私は、今年4月より編集委員のメンバーになりました。まだまだ何をしたいのか、分からないことだらけですが、みんなと楽しく協力して「幅多希望の家」の機関紙を作っていきたいと思っていますので、よろしく願います。

施設長就任あいさつ

この度、「幡多希望の家」の施設長に就任しました島田誠一です。私はこれまで、新生児医療を中心に小児科医として、45年以上働いて来ました。

これまでは急性期を中心とした医療を行ってきましたが、慢性期疾患の方々の入所する障害者施設で働くのは初めてであり、知らないことばかりで少し途惑っています。不慣れで、間違えた行動をしてしまうことも多いでしょうが、早く正しいと思いますので遠慮なくご指導、ご教授下さい。

私は卒業以来、キリスト教系の病院で医師として育てられ、クリスチャン医師となりました。そして「全人医療」身体と心と霊（たましい）が一体である人間に、イエスキリストの隣人愛に基づき、各職種がチームワークを持って患者さん（利用者さん）を支える医療」という医療理念を教えられてきました。すなわち、「医療の中心には患者さんがおり、イエスキリストの隣人愛に基づき、医療者はそれぞれの専門技術を発揮して治療に当たり、患者さんを支えること」を意味します。しかしその理念の実践は非常に難しいことですが、目指すべき素晴らしい医療理念であると考えます。そしてそれは障害者施設における介護理念の在り方にも通じるものと考えます。私は当施設においても、これまで持ち続けてきた同じ理念を持って働きたいと考えています。

マザーテレサはカルカッタの道端で死にゆく貧しく汚れたヒンドゥーの人々の中にイエス・キリストを見、彼らは自分の兄弟だと感じていたそうです。私にはとてもそこまでは出来ませんが、入所者の方々が示す筋緊張の亢進した運動や声にならない発声の意味を理解できるようになることを願い、また彼らの中にある一人としての人格と人権」を大切にしていきたいと思います。

入所者にとっての障害者施設は介護を中心とした生活全般の場です。そこでは医師よりも、看護師さんや介護士さん、ヘルパーさん、さらには栄養科や営繕の方々などの働きなどが重要となります。障害者施設での医師の果たすべき仕事は主に医師法、医療法上に基づいたごく限られたものでしかありません。どうか上手く医師を利用して、それぞれの職種の皆様が、各々の仕事に自信と責任を持って働かれることを期待します。そこに素晴らしい医療や介護が発生するものと信じます。

皆様のチームワークを持った働きが、入所者さんの落ち着いた生活に結びつくことを神様に祈り、就任の挨拶とさせていただきます。

理事 兼 施設長 島田 誠一

総務部長就任あいさつ

皆さん、こんにちは。4月1日付で幡多福祉会 常務理事 兼 幡多希望の家 総務部長に就任する事となりました 河原敏郎と申します。身長170cm、体重74kg（メタボです）、O型のふたご座、趣味といえるほど自慢できるものもなく、休日はメダカに癒されるちよっと残念な60歳です。

この3月末に定年退職を迎えるまで、宿毛市役所に38年間在職をしておりました。この度、当施設関係者の方々とのご縁で、このような形でお世話になることとなりました。慣れないことや分からないことばかりで、ご迷惑をおかけすることと思いますが、精一杯勉強してまいりますので、皆さんよろしくお願いします。

これまで業務においては、公務員としての仕事柄、公共性、公益性、公平性といった点に視点を置いた「バランス感覚」というものを意識してまいりました。当施設も社会福祉法人としての使命やその目的においては、似たものがあるのではないかと感じています。

私のような外部からの就任は、当施設では初めてのこととお聞きしていますが、これまでの経験が少しでもお役に立てるよう、また、一日も早くスムーズに業務が遂行できるよう努力してまいりますので、前任者同様、ご指導くださいますようお願いいたします。

常務理事 兼 総務部長 河原 敏郎



山本医師退任あいさつ

令和2年の新しい年が始まった。昨年も台風19号をはじめとして、日本各地で甚大な自然災害が発生して大勢の人たちが被災した。毎年毎年繰り返される自然災害の状況を考えると、地球温暖化に伴う気候変動の影響を深く憂慮せざるを得ない。

令和2年1月1日地球温暖化に対処する国際枠組み「パリ協定」が本格的に始動した。史上初めて、すべての参加国が目標を掲げて温室効果ガスの排出削減に取り組むのが特徴である。各国は今年中に、2030年の新しい削減目標を国連に提出することが大きな作業となる。しかし排出量が多い中国やインドは削減目標を引き上げる方針を示していない。日本も同様。ましてやアメリカは今年の11月にはこの協定を離脱する考えを示している。

現生人類「ホモサピエンス」はラテン語で（賢い人間）の意味である。この現生人類はおおよそ20万年前から10万年前にかけてアフリカで進化して、およそ6万年前にアフリカを出発して世界各地に広がったと考えられている。現在この地球上にいる人類はすべて「ホモサピエンスサピエンス（賢い賢い人間）」と言われる亜種に属する。

地球上の人口を推測することは難しいが、国連経済社会局によると、西暦1年は約3億人、西暦1250年には約4億人、西暦1800年には約10億人、西暦1900年には16億5千万人、そして20世紀に人類は人口爆発と呼ばれる人類史上最大の人口増加を経験した。

・1927年	20億人	・1961年	30億人
・1974年	40億人	・1987年	50億人
・1998年	60億人	・2011年	70億人
・2015年	80億人		

この速度でどこまで人口が増え続けていくのだろうか？そしてその増えた人口が今の先進国のように化石燃料を使用してエネルギーを大量に消費する社会を望めば、本当に温室効果ガスの削減は可能なのだろうか？現在の発展途上国が先進国並みの便利で快適な消費社会を望むことは当然の権利であると思う。現在のグローバルなネット社会ではそれを隠すことはできない。世界中どこにいても世界中の生活がリアルに見ることが出来るのだから。

昨年スウェーデンの少女グレタさんは地球温暖化防止に不熱心な大人たちを「未来の世代に付け回しをするのは許せない」と厳しく



山本 洋

叱った。その怒りの発言に反論できる本当に賢い「ホモサピエンス」は一人もいないはずである。あの厳しい彼女の視線を忘れることはできない。

私たち一人一人が自然の再生可能なエネルギーを最大限利用して、エネルギーを節約することを常に自覚しながら日々の生活を送っていきたくと思う。将来は明るいとは言えない。しかしその中で、昨年のノーベル化学賞を受賞した吉野彰先生のリチウム電池技術の開発は暗く見えてしかなかった人類の将来への一つの明るい光がともったように私には見える。

吉野先生の慈愛に満ちた優しい笑顔が将来の人類の顔であるように願いたい。

以上は今年の1月の初めに書いたものだが、今日は3月4日、日本中が新型コロナウイルス感染症の拡大を抑えるために全力を挙げている状況である。

私事ではあるが、昨年の10月に膵臓癌の術後の再発が見つかり11月から抗がん剤治療を受けている。2週間に1回投与されているが、その間白血球がかなり減少する期間が生じている。その間は感染症を受けやすい状態となる。何時病状が急激に変化するかもしれないため、10月の時点で新しい施設長を早急に確保してほしいと、理事会で訴えた。幸い後任の施設長が決まったこともあって、私自身3月末で幡多希望の家を退職して治療に専念することにした。4年に満たない短い期間であったが、大過なく施設長の任を果たせたのは、木村先生を初め、松井先生、そしてすべての職員や、保護者会、の皆様ののおかげであったと感謝している。簡単ではありますが退任のあいさつに代えたいと思う。

皆様本当にありがとうございます。